

社会関係資本に注目した農業・農村の持続可能性に関する地理学的研究

寺床, 幸雄

<http://hdl.handle.net/2324/1806778>

出版情報 : Kyushu University, 2016, 博士 (文学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



(様式3)

氏 名 : 寺 床 幸 雄

論 文 名 : 社会関係資本に注目した農業・農村の持続可能性に関する
地理学的研究

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、農業・農村の持続において社会関係資本が果たす役割を明らかにすることを目的としている。具体的には、異なる形態および機能の社会関係資本の果たす役割を地域的文脈をふまえて考察し、地域資源としての社会関係資本の可能性を検討した。また、農業の持続を議論するうえで重要な耕作放棄地の問題に注目し、その内実を検討することで、農業の分析において社会的側面に注目することの意義を示した。

本論文は8つの章から構成される。I章で研究の背景と目的を整理したうえで、II章では、日本の農業および農村の抱える問題点について、特に中山間地域の問題に焦点を絞って検討している。具体的には、耕作放棄地の時代的、地域的傾向とその変化を概観し、IV章以降の実証研究の意義づけを行った。自給的農業地域で耕作放棄が進行していること、土地持ち非農家の多い地域では農地の貸借の活発さによって耕作放棄の進行に差異が生じること、中山間地域において耕作放棄地率の高い旧市区町村が多いことなどが明らかとなった。

III章では、本論文で分析の中心に据える社会関係資本に関して、既存研究のレビューを行い、農業・農村研究において社会関係資本に注目する意義を明確にした。特に、社会関係資本について、形成される関係性の差異に注目した結束型・橋渡し型の区分と、観察される形態の差異に注目した構造的・認知的という区分に注目する意味を検討した。そのうえで、異なる類型の社会関係資本がそれぞれに機能する文脈とそれらの相補性の解明、社会関係資本の質的研究の深化、地域的文脈の差異に注目した社会関係資本の地域資源としての意味の検討という3点が必要であることを指摘した。

IV章では、中山間地域における耕作放棄地の拡大とその要因について、農家の経営選択

のプロセスと耕地利用の時代的变化に注目して検討した。その中で、限界集落化の問題が農業の衰退とも密接に関連していることを示し、農業の持続を支える社会関係の不在と耕作放棄地拡大との関わりについて論じた。

V章では、IV章と同様の地理的環境にありながら、耕作放棄が抑制され、棚田の保全管理がなされている事例を、社会関係資本の役割に注目して考察した。分析の結果として、集落内で形成された共同作業をめぐる規範などの結束型社会関係資本に加え、集落外の主体との連携を維持する信頼や互酬的關係などの橋渡し型社会関係資本が重要な意味を持っていることが明らかとなった。

VI章では、ビワ栽培地域における地域の社会関係の変容と農業の持続の関連性を検討した。特に、近年の高齢化と農家の減少により、社会関係資本の果たしうる役割にどのような限界が生じるようになってきているのかを議論した。そこでは、ビワ栽培が地区内の農業をめぐる役割や規範に加え、行政や農協などの地区外の主体との連携によって維持されてきたことを明らかにした。また、それらの関係性が近年の担い手不足などで変容し、農業の持続を十分に支えられなくなっていることを指摘した。

VII章では、柑橘栽培地域における農業関連の地域的協働の時代的变化を検討し、社会関係資本の果たしうる役割とその変容を明らかにした。研究対象地域では、全戸参加的な役割や規範といった結束型社会関係資本と、農業改良普及所などとの連携を維持する信頼などの橋渡し型社会関係資本とに支えられ、研究同志会の活発な活動や新品種の導入などが行われていた。また、1990年代後半以降に農家の兼業化と高齢化が進んでからも、多様な主体が参加できる関係性の構築により、農業をめぐる新しい協働が実現されていることが明らかとなった。

最後にVIII章で、農業および農村の持続可能性と社会関係資本の関わりについて全体的な考察を行った。本論文で得られた知見は以下のようにまとめることができる。一点目に、どの事例においても結束型社会関係資本が基礎的役割を果たし、それだけでは対処できない問題の発生や、新しい技術および知識の導入のために、橋渡し型社会関係資本が機能していることを明らかにした。二点目に、ネットワークのように客観的に把握できる構造的な社会関係資本だけではなく、信頼や規範といった認知的社会関係資本についても詳細に検討することで、地域の変容をふまえた農業・農村の持続に関する議論が可能となることを指摘した。三点目に、社会関係資本が形成される地域内の文脈および地域外との関係性は、地域の農業の性格によって異なることを、本論文では自給的農業地域と商業的農業地域の対比によって示すことができた。これらをふまえると、本論文で行ったような農業・農村との関わりにおける社会関係資本の実態の解明は、多様な関係性に注目して農村

をとらえる関係論的農村地理学の展開の基礎をなす可能性があるといえる。